



Press release

2021年3月11日

アクサ生命、東日本大震災復興支援を継続～2021年度の支援活動～

アクサ生命保険株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長 兼 CEO:安淵 聖司)は、東日本大震災による被災地の各種支援活動とともに、震災の経験や教訓を全国の学校現場における減災教育に活かすことを目的とした「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」の継続を決定しました。

また、これまでの復興支援に加え、震災から10年を迎えた本年は、日本で初めて訪問滞在型の研究センターとして世界トップクラスの研究者を招聘し、未来社会への課題解決のための場を提供している、東北大学知の創出センターと共同で「東北大学知の創出センター×アクサ協働プログラム『デジタル社会における保険イノベーション』」を開設することになりました。

アクサ生命は、2011年より「みらいをつくろう」をテーマに東日本大震災の復興支援に取り組んでいます。「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」は、同年4月に「復興支援 1件1ユーロ寄付キャンペーン」としてスタートし、現在も「復興支援 寄付キャンペーン『みらいをつくろう』」として継続している被災地支援キャンペーンによる寄付金を原資として、2014年から実施しています。本プログラムは、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟が、自然災害に備えるための教育に取り組む小・中・高等学校を全国から公募し、活動資金の助成と被災地での現場研修、東京での活動報告会を通じて減災教育のノウハウを共有するもので、これまでに全国41都道府県、のべ163校より235名の教職員が参加しています。各校が実施した活動に参画した児童・教職員、保護者、教員、地域住民は約6万人にのぼります。

また、同キャンペーンを原資としたもう一つの取り組みとして、保護者の被災により経済的に就学支援が必要となった中学3年生の進学をサポートする「ユネスコ協会就学支援奨学金」への支援の継続も決定しました。みらいを担う子どもたちに教育の機会を提供し、安心して学び、夢を育むことのできる環境づくりを、当社は引き続き応援します。

東北大学知の創出センターとの協働プログラムは、2021年度後期より始動し、東北大学が震災後からコホート調査により継続してきた「震災と健康」に関するビッグデータ解析の知見などを活かして、震災の経験を風化させることなく未来につながる保険ビジネスの変革や「誰一人取り残さない」世界の実現のための新しい価値創出などについて、研究者、学生、企業人といった多様な人材が集い、社会的課題に向き合います。同プログラムは、東北大学の理学研究科数学専攻、情報科学研究科、東北メディカル・メガバンク機構などとも協力して、保険のデジタル化、技術革新による「保険の未来」について3年間にわたり、参加者が共に議論を深め、社会に提言を行なうことを目標とします。

東日本大震災から10年が経過した今もなお被災地域には様々な社会的課題が存在します。当社は、地域社会のパートナーとして、今後も、震災の記憶を風化させることなく被災地支援を継続し、子どもたちのより良いみらいづくりと、地域社会の持続的な発展に資する取り組みを継続してまいります。

【アクサ生命の2021年度復興支援】

■「復興支援 寄付キャンペーン『みらいをつくろう』」の継続

東日本大震災の翌月から、被災地支援を目的に、寄付キャンペーン「復興支援 1件1ユーロ寄付キャンペーン」を開始。毎年3月に経営陣が被災地を訪問し、その時々ニーズをお聴きしながら、現在も「復興支援 寄付キャンペーン『みらいをつくろう』」として継続しています。これまでに3億4千万円を寄付し(2021年2月末現在)、現在は、日本ユネスコ協会連盟が実施する「ユネスコ協会就学支援奨学金」と「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」の運営資金に充てられています。



「アクサユネスコ協会 減災教育プログラム」の実施を継続

- 「減災の知恵は尊い命を救う」、「被災地の経験を他の地域で活かしてほしい」という東北被災地の声を受け、日本ユネスコ協会連盟と共同で企画し、2014年にスタートしたプログラムです。同連盟が主催し、教育委員会や学識経験者、NGOなどの協力で運営されています。
- 本プログラムは、自然災害に備えたいという小・中・高等学校を全国から公募し、各学校における減災教育をサポートするものです。単なる資金援助ではなく、被災地での研修や活動報告会などを通じて減災教育の知見を学ぶとともにノウハウを共有し、それぞれの地域特性に応じた取り組みを教育カリキュラムに落とし込むための実践的かつ多彩なプログラムとなっています。
- ひとりの教員が影響を与えうる子どもの数や、未来を担う子どもたちを主体とすることによる減災教育の継続性に期待した研修体系で、これまでに、全国41都道府県からのべ163校の教職員が235名参加し、約3万の子供たちへの減災教育をサポートしています。
- **2021年度は4月1日より、本プログラムの公募を開始予定です。**
(詳細は、こちらからご覧ください。 <http://www.unesco.or.jp/gensai/>)

「ユネスコ協会就学支援奨学金」への支援を継続

- アクサ生命は、「ユネスコ協会就学支援奨学金」を通じ、これまでに約2億円を宮城県・岩手県・福島県の中学3年生251名の高校進学支援のために寄付しています。
- 2020年は1,200万円を拠出し、宮城県の子どもたちを中心に14名の生徒の就学を支援しました。
※「ユネスコ協会就学支援奨学金」は、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が、被災地域の教育委員会の支援要請を受けて2011年に創設した奨学金制度です(対象地域:岩手県、宮城県、福島県)。津波による家屋流失・損壊や原発事故の影響による避難などの理由によって著しく経済状況が悪化した家庭の中学生に対して、奨学金として被災生徒1人あたり原則月額2万円が3年間こわって、返還不要で給付されます。

■「東北絆まつり」(旧「東北六魂祭」)への支援を継続

5月22日、23日に山形県で開催される「東北絆まつり2021山形」を支援予定。

■「東北大学知の創出センター×アクサ協働プログラム『デジタル社会における保険イノベーション』」の開設

東北大学知の創出センターでは、毎年、人文・社会科学から自然科学までの全分野を対象に数件の研究テーマを選び、各テーマで国際会議やワークショップなど複数の学術イベントを実施しています。同センターが推進する「知のフォーラム」は、ノーベル賞受賞者など世界トップクラスの研究者を招いて人類共通の課題の解決に挑戦する研究を支援し、訪問滞在型プログラムとすることで日本の若手研究者や学生とも日常的かつ機動的に柔軟な議論を行える環境を整え、日本の研究力強化とともに将来のグローバル・リーダーを養成する国際的な頭脳循環のハブとなることを目指しています。

この度、開設する「東北大学知の創出センター×アクサ協働プログラム『デジタル社会における保険イノベーション』」は、テクノロジーの進化と不可分な未来社会を保険の観点からどのようにデザインしていくべきか、というテーマで研究者、企業、学生、様々な世代の市民と一緒に考え、議論を行い、社会に提言するプログラムです。

東北大学知の創出センター：<http://www.tfc.tohoku.ac.jp/>

【参考情報】アクサ生命が実施してきた主な東日本大震災被災地への支援

- 「復興支援寄付キャンペーン『みらいをつくらう』」を通じた支援
 - ・ 2011年:被災地の「心のケア」を行う認定NPO法人「世界の医療団」に1千5百万円を寄付
 - ・ 2013年:「ユネスコ協会就学支援奨学金」に3千万円を寄付
 - ・ 2014年:「ユネスコ協会就学支援奨学金」、「アクサユネスコ協会 減災教育プログラム」へ3千万円を寄付
 - ・ 2015年:「ユネスコ協会就学支援奨学金」、「アクサユネスコ協会 減災教育プログラム」へ6千万円を寄付
 - ・ 2016年:「ユネスコ協会就学支援奨学金」、「アクサユネスコ協会 減災教育プログラム」へ6千万円を寄付
 - ・ 2017年:「ユネスコ協会就学支援奨学金」、「アクサユネスコ協会 減災教育プログラム」へ4千万円を寄付
 - ・ 2018年:「ユネスコ協会就学支援奨学金」、「アクサユネスコ協会 減災教育プログラム」へ4千万円を寄付
 - ・ 2019年:「ユネスコ協会就学支援奨学金」、「アクサユネスコ協会 減災教育プログラム」へ4千万円を寄付
 - ・ 2020年:「ユネスコ協会就学支援奨学金」、「アクサユネスコ協会 減災教育プログラム」へ4千万円を寄付
 - ・ 2021年:「ユネスコ協会就学支援奨学金」、「アクサユネスコ協会 減災教育プログラム」へ4千万円を寄付(予定)



● 「アクサレディスゴルフトーナメント in MIYAZAKI」の開催を通じた就学支援

アクサ生命が特別協賛する「アクサレディスゴルフトーナメント in MIYAZAKI」を通じ、主催者のテレビ宮崎とともに、東日本大震災で被災した子どもたちの就学を支援

- ・ 2013年: 第1回大会からの寄付金1千万円を岩手県に寄贈
- ・ 2014年: 第2回大会からの寄付金1千万円を宮城県に寄贈
- ・ 2015年: 第3回大会からの寄付金1千万円を福島県に寄贈
- ・ 2016年: 第4回大会からの寄付金1千万円を岩手県に寄贈
- ・ 2017年: 第5回大会からの寄付金1千万円を宮城県に寄贈
- ・ 2018年: 第6回大会からの寄付金1千万円を福島県に寄贈
- ・ 2019年: 第7回大会からの寄付金1千万円を岩手県に寄贈

● 「東北絆まつり」(旧「東北六魂祭」)への支援

- ・ 2011年: 宮城県での開催を支援
- ・ 2012年: 岩手県での開催を支援
- ・ 2013年: 福島県での開催を支援
- ・ 2014年: 山形県での開催を支援
- ・ 2015年: 秋田県での開催を支援
- ・ 2016年: 青森県での開催を支援
- ・ 2017年: 宮城県での開催を支援
- ・ 2018年: 岩手県での開催を支援
- ・ 2019年: 福島県での開催を支援

アクサ生命について

アクサ生命はアクサのメンバーカンパニーとして1994年に設立されました。アクサが世界で培ってきた知識と経験を活かし、254万の個人、2400の企業・団体のお客さまに、死亡保障や医療・がん保障、年金、資産形成などの幅広い商品を、多様な販売チャネルを通じてお届けしています。2019年度には、2,387億円の保険金や年金、給付金等をお支払いしています。

アクサグループについて

アクサは世界54ヶ国で15万3千人の従業員を擁し、1億500万人のお客さまにサービスを提供する、保険および資産運用分野の世界的なリーディングカンパニーです。国際会計基準に基づく2020年度通期の売上は1,032億ユーロ、アンダーライニング・アーニングスは43億ユーロ、2020年12月31日時点における運用資産総額は10,320億ユーロにのぼります。アクサはユーロネクスト・パリのコンパートメントAに上場しており、アクサの米国預託株式はOTC QXプラットフォームで取引され、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス(DJSI)やFTSE4GOODなどの国際的な主要SRIインデックスの構成銘柄として採用されています。また、国連環境計画・金融イニシアチブ(UNEP FI)による「持続可能な保険原則」および「責任投資原則」に署名しています。

*上記のアクサグループ数値は2020年度のもの

本件に関するお問い合わせは下記までお願いいたします：

アクサ生命保険株式会社 広報部

電話：03-6737-7140

FAX：03-6737-5964

<http://www.axacojp>